若者に選ばれる産業へ力合わせ

積水ハウスとの交渉

積水　高齢化に危機感
処遇改善で認識共有

【共同デスク・鈴木記者】積水ハウス（以下、積水）との交渉は佐藤豊団長を先頭に25人が参加し、積水側は15人の出席でした。

「積水の内部留保は大きく、発注単価を引き上げる原資はある。積水が、率先して下請や労働者の賃金単価引き上げをしてもらいたい」と組合側が要求すると、積水は「ここ数年感じるのは従事者の高齢化。労働環境の改善がなければ、若い職方さんが入職せず、積水ばかりでなく業界の衰退を招くと思っている。内部留保への社会的批判も感じている。決して積水や元請ばかりが良ければいいとは思っていない」と、賃金単価の引き上げは明言しなかったものの、現場従事者の処遇改善では共通する認識があるのを確認できました。

建退共の普及について、積水は「建退共制度を否定しないが、独自の積立年金制度をすすめている」と回答しましたが、組合側から「建設キャリアアップシステムで建退共手帳所有の有無の項目もある。自社制度をすすめる積水の現場でほその項目が『なし』となり蓄積されない」と問題点を指摘し改善を求めました。

埼玉の参加者から「定例会議の際に一人親方、個人事業主に対しても『建設業許可を取らないと仕事を出さない』と話があった。許可の必要のない者もいる。行き過ぎた指導を是正してほしい」と指摘すると、「説明不足であり、事実を確認して是正をする」と回答がありました。

清水　8休には10%加算
2次へ指導していく

清水建設との交渉

【共同デスク・村尾記者】清水建設との交渉は、神奈川県連の荒井団長をはじめ組合側から19人、清水建設から建築総本部調達・見積総合センター管理部や土木総本部調達部などから7人が参加しました。

持ち越し課題である賃金調査について、職長手当の支給状況は集計中とし、秋以降に回答するとしました。年収ベースでの賃金調査については「持ち帰って社内討議し、検討としたい」と回答しました。

日建連提言の40代・年収600万円の実現については「全体としてはまだ達成できていないが、優良技能者手当を拡充している。技能を持っている方から年収600万円を達成していただきたい」と道半ばの回答でした。

週休2日の実施について、今年度中に4週6閉所が全現場になるよう取り組み、2年後には4週8閉所に向かうとし、「手取りが減るのではないかとの声もあるが抑制したいと考えている」と表明し、「技能労働者が月7日休みを取得した場合には、下請会社に支払う労務費に対し5%を上乗せして支払う。月8日の休日では10%を加算している」と回答しました。組合側から2次以降の労働者に必ず上乗せ分が行き渡るよう1次に対し指導するよう要望すると、「見積りや契約書に含まれているかが重要、2次への指導もしていく」と回答しました。

竹中　建退共は全額負担
組合は枚数報告を要求

竹中工務店との交渉

【共同デスク・古木記者】竹中工務店（以下、竹中）との交渉は、松本団長（東京土建）をはじめ組合21人と竹中から4人で行なわれました。

竹中から賃金実態調査の報告があり、「職種ごとに母数や経験年数、年齢も異なり、単価引き上げをしてもらいたい」と組合側が要求すると、積水は「ここ数年感じるのは従事者の高齢化。労働環境の改善がなければ、若い職方さんが入職せず、積水ばかりでなく業界の衰退を招くと思っている。内部留保への社会的批判も感じている。決して積水や元請ばかりが良ければいいとは思っていない」と、賃金単価の引き上げは明言しなかったものの、現場従事者の処遇改善では共通する認識があるのを確認できました。

建退共の普及について、積水は「建退共制度を否定しないが、独自の積立年金制度をすすめている」と回答しましたが、組合側から「建設キャリアアップシステムで建退共手帳所有の有無の項目もある。自社制度をすすめる積水の現場でほその項目が『なし』となり蓄積されない」と問題点を指摘し改善を求めました。

埼玉の参加者から「定例会議の際に一人親方、個人事業主に対しても『建設業許可を取らないと仕事を出さない』と話があった。許可の必要のない者もいる。行き過ぎた指導を是正してほしい」と指摘すると、「説明不足であり、事実を確認して是正をする」と回答がありました。

大和　1日ずつ休日増へ
新協約書は締結する

【共同デスク・浅野記者】大和ハウスとの交渉は森田団長（群馬県連）はじめ19人、大和側は6人で対応しました。

賃金調査では前回の組合からの要望を受けて、1次の賃金実態に加えて2次の賃金も報告されました。鉄筋工は人手不足を理由に1次で136の円の引き上げがあったものの大工、基礎工事、電工などの賃金は横ばい状況でした。

組合からは賃金調査の結果を受けて「後継者の育つ賃金と認識しているか。実態を会社としてどのように考えるのか」「年収600万円を実現しないと家族とともに暮らせない」と詰めよりましたが、「契約単価は上がっている」「契約の際には経費を別枠で請求するように指導している」「適正に契約している」とするだけで具体的な賃金引き上げの手立てについては返答がありませんでした。組合からは賃金を引き上げるため、年収で実態を調査すること、社内で後継者の育つ賃金を確保するための手立てを検討するよう求めました。

週休2日については「2021年に4週8休を実現するため現在は4週5休を実施している。1年ごとに1日ずつ休日を増やしていく」と前向きな姿勢を示しました。組合からは「休みが増えて賃金が減るのでは困る」と適正な工程の管理とあわせて賃金引き上げを求めました。大和側は「適正な契約の中で実現していきたい」と答えました。

最後に「パートナーシップ協約書」が原文のままで締結されました。

大和ハウスとの交渉

鹿島　6%上昇も道半ば
個別案件は早急に調査

鹿島建設との交渉

【共同デスク・浅野記者】鹿島建設との交渉は児玉団長（埼玉土建）はじめ24人、鹿島側は11人で対応。

鹿島から賃金実態については「2016年から6%ほど上昇」としながら、職種ごとは「秋から変化がなく、賃金が実態として上がっていない。日建連提言の年収には道半ば」と報告されました。

さらに、低賃金の原因として「重層下請構造」「不安定な仕事状況・協力会社の企業体質など」をあげ、協力会社と協力しながら、産業構造を変えていく必要があるとしました。組合からは「現場労働者の賃金が低賃金なのはゼネコンの責任が大きい。総額で安価なところに契約することを繰り返している賃金は上がらない。若者に魅力ある建設産業にはならない」と賃金の引き上げを求める金が率直に出されました。

また、「適正な契約をしていない」という認識を示し「引き続き努力を続ける」としました。

週休2日では、大林は「土木の分野では18年度に4週7閉所をめざした結果、4割の現場で7閉所が実現。閉所分の補填として、昨年から労務費を1割程度上乗せしている」と答弁。一方、交渉団からは「組合の調査で、大林の従事者はほぼすべて『工期がきつい』と回答。働く人たちから歓迎される週休2日にする必要がある」と要望。「この問題で聞き取りはしていない」とする大林に交渉団は、大林元請で1月に発生した新橋のビル火災をあげ、工期に無理が生じ、安全対策が軽視されることがないよう強く求めました。

大林　無理ない工期で
火災事故で安全も強調

【共同デスク・小松記者】交渉団から「毎年上昇している設計労務単価と、横ばいを続ける賃金の差が、年々広がる状況を元請けとしてどう受け止めているのか」と質問。大林組（以下、大林）の担当者は「賃金は微増。前回調査よりも平均年齢の低下なども考慮すれば、下請への指導の方向性は間違っていない」と答えました。一方、交渉団からは「組合の調査で、大林の従事者はほぼすべて『工期がきつい』と回答。働く人たちから歓迎される週休2日にする必要がある」と要望。「この問題で聞き取りはしていない」とする大林に交渉団は、大林元請で1月に発生した新橋のビル火災をあげ、工期に無理が生じ、安全対策が軽視されることがないよう強く求めました。

大成　乖離は1万円以上
閉所分補填は検討中

【共同デスク・長島記者】大成建設（以下、大成）との交渉は、菅原団長（東京都連）を先頭に22人、大成から9人が参加しました。

前回の持ち越し課題となっていた新国立競技場の賃金調査については、今回の調査に加えて報告がありました。

賃金調査の結果が、型枠大工が公共工事一次で最高でも1万7000円、設計労務単価との乖離が1万円以上という事実を大成としてどう考えているのかという組合からの問いかけには沈黙。企業として「適正な労務費を確保する」という姿勢は感じられませんでした。次回交渉では「宣言」の取り組み報告と現場作業員の賃金引き上げの具体案検討結果を報告するよう要請しました。働き方改革の推進では、現場閉所分の賃金補填は検討中、22年3月末4週8閉所を目指し、工期は作業所単位で打ち合わせて話し合いの余地はあるとの回答でした。

住林　24万円単価アップ
フルハーネスは安価で

【共同デスク・設楽記者】住友林業（以下、住林）への交渉は、阿南和廣団長（東京都連）を先頭に46人が参加し、住林側は7人で対応しました。

週休2日制に関して住林側は、「現在、導入出来ている現場はない。しかし、労働環境の改善は必要だと理解・認識している。工数の削減・作業効率の向上のため、構造材だけでなく、基礎・屋根・外壁下地・石膏ボードなどのプレカット化を取り組んでいる。可能な限り工数を削減し、円滑に週休2日制に移行出来るよう進めている」と回答がありました。

また、賃金に関しては、「プレカット化を進めたことによる収入減は避けなければならない。今期の労働単価の見直しでは、4月から1棟（40坪）あたり、24万円の単価アップをしている」と回答があり、組合側から「何よりも安全・安心を重視して頂き、現場によって柔軟な対応をしてほしい」と強く要請しました。

――――◆◆◆――――

詰将棋の解答

▲3四角成△同玉▲2四金△同歩▲2二角成△同玉▲2三金まで手詰。

現場従事者からの報告

ゼネコン監督は知識不足
工程遅れでしわ寄せ

新築マンション現場での作業
（記事とは関係ありません）

【千葉の仲間からの発言】熱絶縁工で主な従事先は、スーパーゼネコンとサブコンです。建設業に入ったのは、18歳の時で、もう20年、建設業に従事しています。熱絶縁工になったばかりの時は、右も左もわからず、とにかく先輩や親方の指示に従って安全な作業を心掛けていました。必死に仕事だけをして、技術を磨いてきました。

年数がたち、自分も現場を仕切るようになってきたからは、様々な問題に気付くようになりました。釈迦に説法ですが、建物を建設するにあたり、それぞれの業種の工期が定められています。しかし、守られていません。後工程である熱絶縁工事は必ずと言っていいほど、工期が後ろにズレます。基礎工事、躯体工事、ダクト工事、壁ボード工事など、それぞれは少しの遅れかもしれませんが、最後の私たちには大きな遅れになってきます。前工程の良し悪しで工期が削られ、労働時間が長くなり、元請からせっつかれ、負担が非常に大きい職種です。

この原因は何なのかを考えると、ゼネコン監督の知識不足と見通しの甘さだと私は思います。段取り9割、これがなされていません。材料が入ってこない。重機が間に合わない。タクト工事や電気工事が終わってないのに天井が仕上げられてしまう。そしてやり直し。結局、私たちが工期を削られる状況です。

仕事が厳しい状況で、若い子たちに建設業でがんばってもらいたいという思いから、少しでも給料に反映させたい単価交渉もしました。断られました。それでは建退共だけでも上位企業に「建退共の請求をしたいんです」と言っても、「申請書を自分で作れ」と面倒くさそうに言われる。正直、貰えるのか不安です。ちなみにこの現場の元請はSなんですけど、企業交渉の新聞を見ると、Sは民間工事でも建退共をくれると書いてあります。しかし1次や2次が面倒くさがって、やってくれないのが実態ですし、中には辞退届を出せという上位業者までいます。

この金額では夢持てない

私が問題だと思っているのは3点です。1つは工期。全てが元請のせいとは言いませんが、適正な工期を設定し、その工期通りになるようにしてほしい。そうでなければ、私たちの職種はいつまでも短工期でいつもいつも大変な思いをし、いつか、誰もこの仕事をやらなくなってしまうと感じています。

2つ目は単価です。東京のアルバイト求人を見たら、飲食店で時給1250円でした。8時間働いたら1万円。交通費と食事も出るそうです。アルバイトで1万円、建設職人は、天気に仕事を左右され、現場に到着したら賃金も出ないのに待機してろと言われ、1万5000円とか1万6000円。これでは夢とか希望とか持てないと思います。

3つ目は退職金です。千葉土建の会議で、建退共を長年かけて来た先輩が1200万円も退職金が出たと聞きました。

頭上を積み荷が旋回
危険なオリンピック選手村

【神奈川の仲間からの発言】僕は、2次下請をしている父親の会社で、型枠大工をしています。

1次のWという工務店から、昨年10月の後半にオリンピック選手村の仕事を請けましたが、現場に慣れるという意味で基礎工事を請け負っているところに応援に行きました。現場では、僕らの頭の上を積み荷が常時旋回している状態でした。少しでもゆれて玉掛けが外れたら、僕らの頭に落ちる危険があります。通過ならまだしも、PCが頭の上でずっと止まっている事もありました。

選手村は工期をずらす事はできないみたいで、そういった事は隣の現場でもあるようでした。まだ死亡災害や大きな事故が起きず怪我人が出ないのが不思議な感じです。僕達は、今はDハウスの仕事をしています。

僕は組合の運動はまだまだですけど、青年部を通して若い者が夢を持って就職できる建設業にしていきたいです。そして自分の子どもに誇れる職人になります。小学生や中学生の子どもたちから、建設職人に将来なりたいと思われるように組合活動で考えていきましょう。

この先はさらに職人不足になっていきます。外国人もたくさん現場に入ってくると思いますが、日本の技術力はすばらしいと思っています。

建設職人が現場で仕事をしなければ、ゼネコンやハウスメーカーの経営は成り立ちません。企業は建設職人の技術に見合った賃金・単価を払うようにしていくべきだし、現場では若い人を育てる環境を作っていくことが必要だと思います。僕も若いですが、若手が入ってきたら、しっかりと面倒をみて、建設職人の良いところを伝えていきます。

建設職人の明るい未来を目指してがんばって交渉にいきましょう。